



# 共創

NO 7

令和3年10月1日発行

96日間の前期が終了し、10月4日(月)から107日間の後期が始まります。

夏休み明けは、静岡県に初めての非常事態宣言が発出され、何よりも子どもの生命、健康を第一に考え、感染対策を行っての学校再開となりました。これまで以上に制約がかかり、子どもたちにも切ない思いをさせてしまったことと思います。昨日で非常事態宣言も解除され、後期は、感染防止に努めながらも、7月までのような学習や活動、行事を進め、子どもたちが笑顔で、夢中になって取り組む姿を支えています。今後とも、保護者、地域の皆様の御理解、御協力をお願いいたします。

昨年度も、この学校だよりに志太地区の小学校で作成されている文集「わかしだ」に応募した児童の作文を紹介しました。今年度も、学年ごと作文や詩、俳句などを応募しました。その作品にとっても印象深い作文がありました。皆様にぜひお読み頂きたいと、一部抜粋となりますが、紹介します。

6年生 K子さんの作文 「前向きに 強く 優しく生きたい」より

この夏に、人を大事に思うこと、かけがえのない命について考える出来事がありました。

私には、少し離れたところに住んでいるおじいちゃんがあります。そのおじいちゃんが亡くなったことです。亡くなる前日、私は家族と一緒におじいちゃんのお見舞いに行きました。

(中略) お見舞いに行ったK子さんは、おじいちゃんとの思い出を思い浮かべます。

- ・小さな頃、きのこをよけて食べていたら「K子は目がいいなあ」と笑って言ったこと。
- ・一目で気に入った紫色のランドセルを買ってもらったこと。
- ・数年前のお正月、もらったお年玉が入った袋に、思うように動かない体で、孫一人一人に一生懸命名前を書いてくれたこと。

私たちがおじいちゃんのもとにかけつくと、おじいちゃんは、息をするのもつらそうな感じで横になっていました。お母さんは、「これが最期になると思うよ。」と言っていました。私は、おじいちゃんにたくさん話しかけたいと思いました。最期の時をおじいちゃんと少しでもたくさん過ごしたいと思いました。「おじいちゃん、大丈夫?K子が来たよ。みんないるから、安心してね」と話し、おじいちゃんの手をずっとにぎりました。おじいちゃんは、話せないけれど、目を見てうなずきました。この時が最期になりました。

なんとなくわかっていたつもりでしたが、もうおじいちゃんがないということは、辛いものでした。私が話しかけた時、おじいちゃんにどのくらい伝わったかわかりませんが、あの時一緒にいられて、たくさん話しかけられてよかったと思っています。

私は、おじいちゃんから「人を思う心」を教えてもらいました。いつも笑顔で優しくおじいちゃんに心から「ありがとう」と言いたいです。これから私は様々な経験をしていくと思いますが、身近な人にほど感謝の気持ちを持ち、いつも前を向いて優しく生きていきたいです。

子どもたちにとって、傍に寄り添う家族や大人の存在は大きく、その姿に「生き方」を学びます。人を思う気持ちは、必ずその人を包み込み、染み込むように伝わっていきます。おじいさんが灯した「優しさ」は、K子さんの心を照らし続けることでしょう。 (校長 小林 正宣)